

3

One hot summer day, Alice was reading a book with her sister, sitting under a tree by the river.

"Oh my, this is so boring that I got sleepy. I wonder if there's anything fun."

Then, a single rabbit holding a huge watch suddenly rushed past Alice.

"Oh, my gosh! I'm late for the tea party! I'd better hurry up!"

The rabbit then hopped into a hole at the roots of a tree.

"Oh, there is a hole in there and that strange, talking rabbit...Maybe I can find something fun if I follow that rabbit!"

With that thought, Alice jumped into the hole, following that rabbit.



5

After walking through the hole for a bit, Alice found a door ahead.

The door was way too small for Alice.

Next to the door, there was a pretty glass bottle. There was a label on it that said 'Drink me'.

Alice drank the water inside the bottle.

Then, surprisingly, Alice's body suddenly got smaller and smaller.

As she became way too small, Alice couldn't reach the doorknob.



ある なつの あついひ。

アリスは おねえさんと いっしょに、みずべの きの したに
すわって、ほんを よんでいました。

「あ～あ、たいくつすぎて ねむくなっちゃったわ。

なにか おもしろいことが ないかしら」

すると、おおきなとけいを かかえた いっぴきの うさぎが、
アリスの まえを かけぬけていきました。

「たいへん たいへん！おちゃかいに おくれちゃう！

いそげ いそげー！！」

ウサギは、きの ねっこに あいていた、
あなの なかに とびこみました。

「こんなところに あなが あいてる。それに、ことばをしゃべる
へんなうさぎ。・・あの うさぎさんを おいかけてたら、
なにか おもしろいことが みつかるかもしれない！」

そうかんがえた アリスは、うさぎの あとを おいかけて、
あなの なかに とびこみました。



あなの なかを しばらく あるいていると、
やがて めのまえに、ドアが 見えました。

アリスより、ずっとずーっと ちいさな ドアです。
そして そのとなりに、きれいな ガラスのビンが
おいてありました。

『わたしを のんで』とかいた かみが はってあります。

アリスは、ビンに はいっていた みずを のみました。

すると、どうしたことでしょう！

アリスの からだが、みるみるうちに
ちいさくなって しまいました。

でも こんどは ちいさくなりすぎて、
ドアノブに てが とどきません。

